

ナビター

今回は、ヨーロッパ諸国として日本と対比する観点から、スイスを位置づけてみる。下に示す表は、本年4月23日に調査した「フォーチュン500」から引用し、まとめたものである。

↑
ナビゲーター

ヨーロッパは歴史も言語も異にする多数の国々が存在し、EU（欧州連合）やEFTA（欧州自由貿易協定）などの国際協力の枠組みで緊密に連携している。スイスはその中心に位置するといえる。う地政学的観点からすれば、

日本への期待

世界各地から



7

日本や他の欧州の国々と比較すると

（世界）本社や欧州地域本社に最適な立地であるという仮説にたどり着く。下の表に示すようないくつかの数字から分析すれば、この仮説が真実であることがわかる。

雑誌フォーチュンの最新500社ランキングをみると、500社のうち13社はスイスに本社を置いている。これだけでも世界のGDP1%に満たない国としては、たいへんなことだ。下の通り、他のヨーロッパ主要国の経済的な個別データは、スイスを含めて

ビジネス上の優位性 (3)

高くない。これに対して、日本はスイスよりも高いデータが報告されている。ただし日本も、スイスを除く欧州の主要5カ国の合算に比べると、小さな経済ということになる。ヨーロッパ全体を頭に置くなら、けつして小さな経済圏ということにはならないだろう。ドイツ、英国、フランスなど主要5カ国以外のほかの国々を加えた全ヨーロッパでは、市場として小さいわけではない。

スイスに世界本社や中枢機能を置く国際企業は850

スイスは国内市場が非常に小さいため、やや誤解を招きやすいが、その中には、日本のサ

| 国名 | スイス | ドイツ | 英国 | フランス | イタリア | スペイン | 日本 |
|--------------------------------|------|------|------|------|------|------|------|
| 「フオーチュン500」 (2021年版)における社数 | 13 | 27 | 22 | 26 | 6 | 7 | 53 |
| 全世界GDPにおける国別 割合(2021年、%) | 0.9% | 4.5% | 3.3% | 3.2% | 2.3% | 1.5% | 5.4% |
| フオーチュン500対象企業 のGDPに占める割合(%) | 2.9% | 1.2% | 1.3% | 1.6% | 0.5% | 0.9% | 2.0% |

(<https://fortune.com/global500/2021/search/>)

他の文中データ(次回を含む)は、下記による(本年4月13日・23日検索)。

<https://www.visualcapitalist.com/visualizing-the-94-billion-world-economy-in-one-chart/>, figures for 2021 (and 2020 for some countries)

Swiss Global Enterprise (<https://www.s-ge.com/en/>)

INSEAD Global Talent Competitiveness Index 2021

(<https://www.insead.edu/faculty-research/research/gtci>)

ンスターの世界本社や日本たばこ産業（JTI）の国際部門などが含まれる。つまり本社や中枢機能をスイスに置くという仮説は、実際に市場で証明されているのです。

他方、スイスが世界本社や欧州地域本社との立地先としてふさわしいかどうかを俯瞰（ふかん）してざっと分析すると、人材確保の容易性、企業やサービスの利用性など、この種の判断によく使われる基準を適用すれば、明らかにスイスの優位性が浮き彫りになってくる。

【スイスルジエロ・ウィズレル、リーム中産連】

(月曜日に掲載)